

平成30年7月豪雨

道路網の寸断と企業活動への影響

平成30年7月豪雨では、観測史上初となる記録的な豪雨に襲われ、県内全域で土砂災害や河川の氾濫が多数発生し、100名を超える尊い命が奪われました。道路においても幹線道路の多くが被災し、支援物資の輸送や、企業の経済活動、県民の日常生活に著しい影響を及ぼしました。このことから、基礎的な社会基盤である道路が、災害からの復旧・復興においても極めて重要な役割を担うことが改めて認識されました。

県管理道路の被災状況

被災箇所※1

規制区間※2

616 箇所 | 179路線 **432** 区間

※1 平成30年8月末時点。

※2 片側交互通行を含む延べ規制区間数。なお、全面通行止めは167路線345区間。

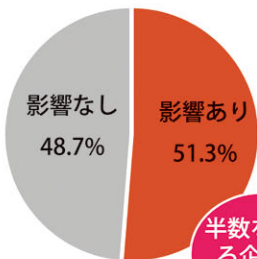
企業活動への影響

県内企業被害額（推計）※3

4,357 億円 | 直接被害1,101億円
間接被害3,257億円

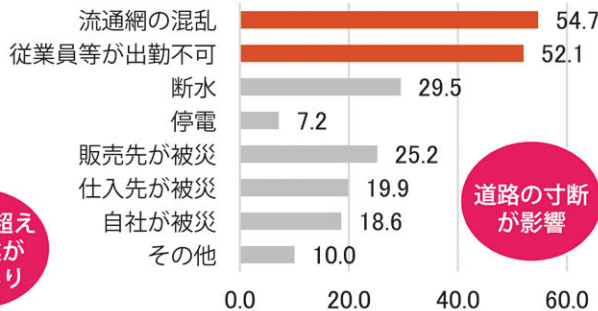
※3 広島県アンケート調査。1,122社より回答。被害額は平成30年7月末時点。推計には大企業の被害額は含まれない。

事業活動への影響の有無



半数を超える企業が影響あり

事業活動への影響の要因



道路の寸断が影響



店頭から消えた商品



交通網寸断による大渋滞



山陽自動車道（東広島市）

7/14通行止め解除



広島呉道路、一般国道31号（坂町）

広島呉道路：9/27通行止め解除
国道31号：7/11迂回路、9/12本復旧



7/21通行止め解除

一般国道2号（広島市）



国道31号

写真提供：中国地方整備局